



Title	台湾活動記録（2018年8月24日～9月2日）
Author(s)	大坪， 慶之
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター. 2019, 9, p. 99-101
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/84920
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

(6) 台湾活動記録 (2018 年 8 月 24 日～9 月 2 日)

大坪慶之

8 月 20 日 (月) 【関空発⇒台北着】エバー航空 BR131 便など

片山剛（大阪大学名誉教授）・稲田清一（甲南大学教授）・田口宏二郎（大阪大学准教授）山本一（立命館大学講師）が関西国際空港から、大坪慶之（三重大学准教授）が中部国際空港から台北に到着。調査の前に「台日明清研究交流合宿研習營」（2018年・明清史夏合宿、8月21～23日）に参加するため、中央研究院を訪れる。

8月23日（木）

藤澤聖哉（大阪大学特任研究員）が台北に到着する。宿舎は、福華国際文教会館。

8月24日（金） 国史館（台北本館・台北市中正区）

片山・稲田・田口・大坪・山本が、午前中に福華国際文教会館へ移動する。藤澤と合流後に国史館を訪れ、調査を開始する。まずは、事前に閲覧申請しておいた南京登記文書 20 件について、エクセルのフォーマットに入力していく。そこでは特に、日本占領期に住宅や店舗の賃借料を南京市政府が代理徴収した際に作られた「領租証」や、戦後に宅地の返還を求めた「発還土地申請書」に関する記載に留意しつつ、調査を進める。

8月25日（土） 台湾大学図書館（台北市大安区）

台湾大学図書館で調査を行う。この日は各自がそれぞれの関心にしたいが、国史館で閲覧した文書と関連する資料を収集する。片山・大坪は、日本占領期における日本人商人による店舗の占拠・使用に関するもの、稲田は新編地方志・文史資料の記事、田口は国民党中央政治会議の文書、山本は戦後の不動産返還に関する史料、藤澤は民国期の叢書に収録された人口調査関係の文献を中心に閲覧する。

8月26日（日） 自由行動

公文書館が休みのため自由行動とし、各自が前日の残りの作業や収集済み資料の整理、書店での関連書籍の収集をして過ごす。

8月27日（月） 国史館（台北本館）

台北の国史館へ行く。午前中は先週までの作業を受け、1930年頃の建築登記に関するデータを中心に、事前申請した 20 件の南京登記文書を再度閲覧しつつ、画像購入のためのダウンロードを行う。午後は、昨年夏に申請したが閲覧できなかった登記文書について、エクセルにデータを入力していく。

8月28日（火） 国史館（台北本館）

国史館の台北閲覧室に行き、昨日の作業を継続する。作業の中で、1938年の初めころに中国人が、南京市の中心部にどれくらい住んでいて、戦争による被害を受けた土地に建物を再建することが可能だったのかが議論になる。また、日本が設定した「日本人街」（「軍

区」などともいう)についても問題となる。

8月29日(水) 国史館(台北本館)

引き続き、南京登記文書の閲覧をする。六名とも、予定していた追加文書の調査をほぼ完了する。早めに終わった田口は「仮定登記」について、また大坪・山本は、日中戦争期に日本人が占拠・使用した土地に関するものや、日本人に協力した中国人の財産について記された「逆産申請発還」などの公文書(いずれも戦後に作成される)を閲覧する。

8月30日(木) 国史館(新店・新北市新店区、台北本館)

片山・稲田・大坪・山本・藤澤の5名は、前日までに申請して「原件閲覧」となっている資料を調査するべく、新店の国史館へ行く。申請は、1930年代の地図が含まれている檔案や、戦後の南京市政府による土地接收、1930年代に太平路・中山東路・白下路を整備する際に実施された土地徴収・払い下げに関するものを中心に行った。田口は別行動を取り、台北本館にて昨日の作業を継続する。そこで新たに、不動産のブローカーをしていた「經紀」についての史料を見つける。

8月31日(金) 国史館(新店・台北本館)

この日は、二班に分かれて行動する。片山・稲田・大坪・藤澤の4名は新店の国史館へ行き、昨日申請した檔案を引き続き閲覧し、必要なものについてデジカメ撮影を行う。そのうち南京中国銀行の登記文書には、乾隆・嘉慶年間の古い契拠も含まれていたが、大きな文書に対応する機器を持参していなかったため、次回の調査時に撮影することにする。

田口・山本は台北本館へ行く。田口は昨日の作業を継続し、山本は「日僑」関係の資料を閲覧する。

9月1日(土) 台湾大学図書館

台湾大学図書館へ行き、国史館で収集した檔案を分析するのに必要な関連資料を集める。夕刻、ミーティングを行い、今回の調査の成果および分析の見通しに関して意見交換をする。また、ニューズレターの作成など、今後の作業予定についても相談する。

9月2日(火) 【台北発⇒関空着】エバー航空 BR130 便など

片山・稲田・田口・大坪・山本・藤澤の6名が、調査を終え帰国する。
